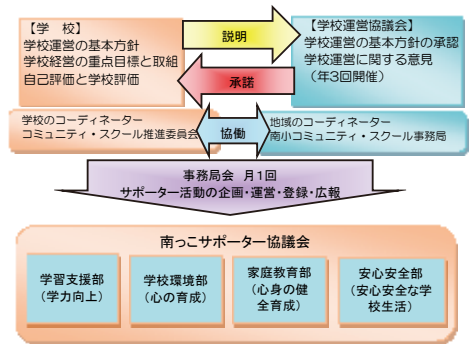


# きょう いく 共育も大人も共に育つ、合言葉は「今日、(南小に)行く！」

広島県府中町	● 活動名	● 関係する学校名
	府中町立府中南小学校学校運営協議会	府中町立府中南小学校

設置年度	平成 26 年度	学級数	26 学級	児童・生徒数	700 人
学校運営協議会の委員数	15 人	学校運営協議員の属性	学校支援地域本部代表 1名 地域代表 6名 行政代表 2名 府中町立府中南小学校教職員代表 4名 PTA代表 2名		
地域学校協働本部との連携・協働体制の有無	有				
参考 URL	http://www.fuchuminami-e.hiroshima-c.ed.jp/				

● 体制図



● 連絡先	府中町立府中南小学校	☎ 082-281-9414
-------	------------	----------------

● 活動の概要・経緯

平成24～25年度、文部科学省の「コミュニティ・スクールの導入促進に関する調査研究事業」を実施し、平成26年度から今日まで、「共育」を理念に、家庭・地域が学校に参画していく仕組みを構築し、地域の力を取り入れた教育活動を推進している。目的は、児童が抱える課題を地域ぐるみで解決するための仕組みづくりで、4つのサポーター活動により課題解決を図ることが出来ている。もう一つの目的は、質の高い教育の実現で、地域人材を活用し、生活科・総合的な学習の時間の充実につながっている。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【特徴的な活動内容】

- ①サポーター登録による自主的な参加による活動  
保護者や地域の方から「南っこサポーター」を募り、学習支援部（授業、放課後学習室の支援等）、学校環境部（教室の整備等）、家庭教育部（スポーツ大会の練習指導、子育て談話室の企画・運営等）、安心安全部（校外学習の引率等）で、それぞれサポーター活動を行っている。
  - ②事務局のコーディネーター的役割で円滑な活動  
南っこサポーター活動の企画・運営については、学校運営協議会メンバーからなる事務局が校長と相談し、学校教育目標に応じた活動となるよう、月1回開催する事務局会議で活動の目的、内容、そのために必要な人材、呼びかけ方などを確認して進めている。
- ### 【実施にあたっての工夫】
- ①事務局が、校長と綿密な意思疎通を図り運営している。また、「サポーター心得」を作成し、守秘義務等の決まりを周知している。
  - ②学校運営協議会を年3回、南っこサポーター協議会を年3回開催し、縦と横のつながりで意見交流を図っている。
  - ③校長は、学校としてどのような連携協力を望むのかについて、ビジョンを明確にして伝えている。
  - ④学校教育目標の達成に向け「ベクトル」を共有するために、学校運営協議会で「共育（きょういく）」をキーワードと決め、学校教育目標を意識したサポーター活動を地域にオーダーする「学校主導型」の形をとっている。
  - ⑤活動のコンセプトを「できるときにできることを」「いつ来ていつ帰ってもいい」とし、サポーターが時間を調整できるようにしている。

## ● 事業を実施しての効果・成果

- ①家庭や地域が当事者意識をもって、学校教育目標の達成に向けた方向性を共有することができた。
- ②「子供たちのサポートは楽しい」、「サポーターさんがきてくれて嬉しい」という声があがるなど、「共育」の理念が浸透しつつある。
- ③児童会執行部が本校を「府中町一の学校」にするためにできることを自分たちで考え、学校や地域に役立とうと実践しつつある。
- ④教職員へのアンケートでは「南っこサポーターの活動への満足」は100%であり、ウィンウィンの関係が成り立っている。

## ● その他

- 1 地域と学校が連携・協働した基盤的な活動：学校支援地域本部コーディネーターが中心となり、地域と学校をつなぎ、サポーター登録を推進するとともに、元教員や学生等が学習支援サポーターとして学習支援を行っている。
- 2 放課後子供教室の連携・協力団体：松庭琉煎茶道、府中町シルバー人材センター、広島県金融広報委員会
- ③学習支援：地域未来塾として、元教員、地域の高校生・大学生等による学習支援活動の実施。
- ③府中南小コミュニティ・スクールの連携・協力団体：命の教育や防災キャンプの実施にあたり関係機関、団体と連携。

○学習支援：学習支援サポーターによる放課後学習教室、夏休み学習教室により個別支援を実施。



三年生の地域安全マップづくりでは、サポーターや保護者が子供たちと共に地域を歩き、一緒に作成します。



大人向けのヨカ教室やカラオケラビー教室を開催後、子育て談話室「しゃべり場」にて子育ての悩みなどを話し合います。

ポイント

事務局がコーディネート機能を果たしている好事例です。「サポーター心得」などを通じて、ボランティアの質を高めていることも他の地域の参考になると思います。